

一般社団法人 環境地盤工学研究所 平成30年度通常総会 議事録

1. 日時：平成30年9月8日（土）14:00～14:30
2. 場所：京都大学百周年時計台記念館 国際交流ホール I
3. 出席者：個人会員 51 名、法人会員 20 団体、委任状 60 通
4. 配布資料：

資料－1：一般社団法人環境地盤工学研究所平成30年度通常総会資料

資料－2：第11回環境地盤工学研究会 講演資料

5. 議事等：

平成30年度の通常総会の開催に当たり、嘉門理事長から本年6月末で138名(3名の特別会員を含む)の個人会員、法人会員54団体の参加に至っていることの報告があり、各位のご支援に対する謝意の表明があった。この結果、議決権のある社員総数は、192に及んでいるという報告があった。また、本日の総会での議論を通して平成30年度も環境地盤工学に関する研究・技術開発・普及等について、継続してご支援・ご指導を賜りたいと述べた。

出席社員数は131名（うち委任状は60通）と過半数を超えており、また役員の理事は全員出席であることから、総会は適法に成立した。

司会の乾理事から当法人の定款第16条に則り、議長を代表理事が務めることになっていることから、嘉門理事長が議長を務めると発言があり、平成30年度の総会の開催を宣言した。

(1) 議案

- ・第1号議案 「平成29年度事業報告に関する件」

議長の指示で勝見理事が、あらかじめ配布した資料に沿って、平成29年度の事業活動の報告を行った。当初予定した講演会やフォーラムによる知識普及事業、研究委託や技術相談の紹介業務等について説明するとともに、平成29年度若手研究者研究助成事業として、2件の助成を決定した。

さらに、昨年9月2日に開催した通常総会では90名の参加を得て盛会であったこと、今年3月10日の第4回RIEGフォーラムの際には70名の参加であったことを報告した。

- ・第2号議案 「平成29年度決算に関する件」

引き続き勝見理事から当期の決算状況について報告した。

当法人収入は会費収入が主であるが、交流会参加費などを含め当期収入総額は

5,356,005 円であった。一方経費については、2 件の若手研究者研究助成金が 1,000,000 円、事務室賃貸料が 360,000 円となったが、支出総額 3,002,785 円であった。その結果、次期繰越金として 2,353,220 円を平成 30 年度の活動に向けて留保できた。最後に村田監事から、8 月 16 日に実施した会計監査の結果である監査報告書を読み上げた。

議長は、「事業報告、決算全体についてご質問・ご意見等はありませんか」の問いかけを行ったが、特に質問は無く承認された。

(2) 報告事項

・報告事項 1 「平成 30 年度事業計画について」

勝見理事から平成 30 年度の活動予定の概要を説明した。前年度の活動を踏襲して、環境地盤工学に関わる多様な課題の解決と、人財の活用を推進し、社会貢献に資することを目指して次のような活動を実施する。

(1) 環境地盤工学に関する内外の調査研究に関する業務

所属する 3 理事の研究活動を通じて実施し、関連学会等での講演発表などを今後も RIEG ホームページにて公開し、会員への情報提供に努める。

(2) 環境地盤工学に関わる技術開発と指導

理事との個別面談を通じて会員の要望に応えるように努める。ただし、個別に委託研究が必要となる場合は平成 29 年度と同様に、他の財団などへ受託研究の受け入れを斡旋する。

(3) 環境地盤工学に関わる一般への普及

会員への情報提供を中心に、講演会を第 11 回環境地盤工学研究会として平成 30 年 9 月 8 日に開催するほか、第 5 回 RIEG フォーラムを平成 31 年初め頃に開催を予定している。

(4) 若手研究者研究助成事業の推進

環境地盤工学に関わる若手研究者助成事業として本年度は 3 名程度助成する。法人会員の方も所属の 40 歳未満の若手研究者に応募を促してもらうように依頼した。ただし、研究助成に採択された際には、当該者は当法人の個人会員として入会することを前提条件とすることとした。

(5) その他、当法人の目的を達成するために必要な業務

ホームページの充実には今後も努力し、可能な限り迅速なアップデートを行う。さらに、昨年度から始めた RIEG 人財バンクについて、環境地盤工学に関わる人財の活動支援をより一層進め、データ収録に努めるとともに、各法人会員の企業活動における人財活用へのマッチングを進めたい。

・報告事項2 「平成30年度収支予算について」

平成30年度予算については、収入予定総額が5,481,220円であり、本年度活動予定の経費については不足なく運営できることが説明された。

・報告事項3 「会員に関すること」

平成30年度会員については、平成30年8月31日現在で個人会員は142名、法人会員は54団体に及んでいる。

さらに、75歳になられた個人会員の特別会員への移行は、平成30年度には今のところ2名との説明があった。外国在住の方についても、お申し出に基づいて「特別会員」に準じた取り扱いとする。

議事経過要旨及びその結果を明確にするために、出席の理事は次に押印する。

平成30年9月8日

一般社団法人 環境地盤工学研究所

代表理事 嘉門 雅史

理事 勝見 武

理事 乾 徹